行政視察報告書　　広報広聴委員会　　　2018年8月8日(木)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　11番　石井通春

|  |  |
| --- | --- |
| 視察先 | 埼玉県寄居町 |
| 研修テーマ（調査項目） | 2年連続全国一の議会だよりの編集 |
| 1. 調査内容をどう評価するか   ・人口33000人、前回選挙（統一選挙）は無投票。  ・年4回発行の「お元気ですか、寄居議会です」13000部発行、全国町村議会議長会広報コンクールで2年連続優勝。  ・統一テーマを定めた表紙シリーズ。「読まれなければ意味がない」をコンセプトにした編集を心がけている  ・特に力点を置いているのが市民ボイスの掲載。議会からの視点だけにとどまらず、市民の声を了解を得ながら顔写真、氏名を載せ、議案等に対する評価の声を載せている点。  ・審議結果だけでなく、審議経過を伝える点も力を置いている。あった事を全部載せるのではなく、住民が知りたいこと、関心が高いこと思われる議案等を優先的に載せる。  ・決算審査を掲載する際は、結果ではなく「決算は終わった事ではない」と大見出しを打ち、関心の高い議案を中心に掲載し細かい点は割愛する。  ・広報委員は8名。ここも比較的期数の少ない議員が中心となっている委員会構成  ・町民の声を載せるために、委員自らがノルマ（3名程度とか）を課せられて、感想文を求めに行く活動をしている。苦労はあるが、議員自らの資質向上につながっていると評価されている。今回無投票であった事を受け、議会だよりのテーマを「なぜ無投票？」に決めて、それがもたらすものは何か。町民の声を委員が取材してその結果を掲載する。など。  ・工夫されたレイアウトづくりは、業者が委員会に入ってもらっている。指名競争入札であるが、仕様書に委員会を参加する旨等記載している。結果、同一業者（会議録センター）が受注を続けている。   1. 本市に反映できると思われる点   ・議会からの「上から目線」ではなく、常に町民目線を意識した広報活動は目から鱗と言っても過言ではない充実ぶりであった。本市も発想の転換が必要。  ・全て変えるのは無理としても、まずは委員会に印刷業者に参加してもらい編集を一緒に始める事から手掛けてはどうか。しかし、視察内容全て、今後本市が目指していくべきものと考える。  ・期数の若い委員会メンバーであっても、だよりのテーマ等を決めるのに、期数の多い議員等からの抵抗は見られない。その理由は、議会だよりが議会改革の重要なテーマであるという認識がほぼ共通しているとの事。   1. その他（感想・意見） | |